

繊細さを包括するダイナミックな外観  
複数のマテリアルと光、緑が織り成す  
有機的な空間で、麗らかな日々を

道路拡張に伴い二世帯住宅へと生まれ変わりを遂げた  
光と風が駆け抜ける住まい。車での移動が主なお母様のための  
開放的な車寄せをはじめ、コンクリート、金属、天然石  
それぞれの素材でコントラストを生み出した。  
陽光溢れる緑とともに、ゆったりと人生を愉しむステージが  
形造られました。





# Earnest architects

建築設計事務所：アーネストアーキテツ株式会社

## お問い合わせ・資料請求

〒108-0014 東京都港区芝 5-5-1  
TEL:03-3769-3333  
<http://earnest-arch.jp>

## 駒沢空間ショールーム

〒158-0081 東京都世田谷区深沢 4-6  
駒沢公園ハウジングギャラリー ステージ 2  
TEL:03-5707-5656

アーネストアーキテツ WEB サイトでは様々な作品事例をご覧頂けます。  
アーネストアーキテツ で検索、アクセスをお待ちしております。

## ■DATA

敷地面積 / 11031.93 m<sup>2</sup>  
延床面積 / 590.71 m<sup>2</sup>  
1 階 / 366.84 m<sup>2</sup>  
2 階 / 214.14 m<sup>2</sup>  
3 階 / 9.73 m<sup>2</sup>  
用途地域 / 第一種低層住居専用  
構造 / 鉄筋コンクリート造  
施工 / アーネストホーム株式会社

## ■担当スタッフ

企画/設計 : 土田清  
コーディネーター: 田原麻里  
スーパーバイザー: 上田年嗣

右・左上/吹き抜け5.8m、中空のコンクリートの壁面が存在感を表すクリーンな印象の、子世帯のダイニングキッチン。ランチは溢れる光の中で、ディナーは木々の息吹に耳を傾けながら。  
左中/織り上げ天井の間接照明が白の空間に柔らかい濃淡を写すファミリーリビング。  
左下/コンクリート壁面の積層ガラスがリズム感を醸し出す、ガラスのパティオ。三層の吹き抜けから明るい光が、存在感のある石のオブジェを照らし出す。





右上/庭に繋がる親世帯のリビングダイニング。大開口の窓を開け放つと光が溢れ、風が通り抜ける。心からの安らぎに身を委ねられる、気持ちの良い空間。  
右下/庭の植栽を借景として取り込み、凜とした趣のある和室。都下にいることを忘れさせる静寂なひとときがここに。  
左/「以前に比べてリビングや庭で過ごす時間が増えました」と、オーナー。元あった和風庭園の巨石を利用した洋風の庭は、シンボルツリーの“スダジイ”をはじめ、豊かな木々が家族を誘う。



# Luxury Space



多くの人に支持される住宅ブランドの力を探る  
**豪邸といえば「アーネスト」の理由**

「上質でラグジュアリーな住宅を頼むならアーネスト」――

そんな声をよく耳にします。組織設計という設計方法で「豊かな空間」を設計し続ける、アーネストの魅力を分析し

撮影 熊谷忠宏

ベージュのライムストーンの外壁が美しい水  
邸は、カーブが描かれた佇まいがやさしい印  
象。タイル貼りのテラスが庭と内部をつなぐ。



Keyword  
6

## 風景になるプール

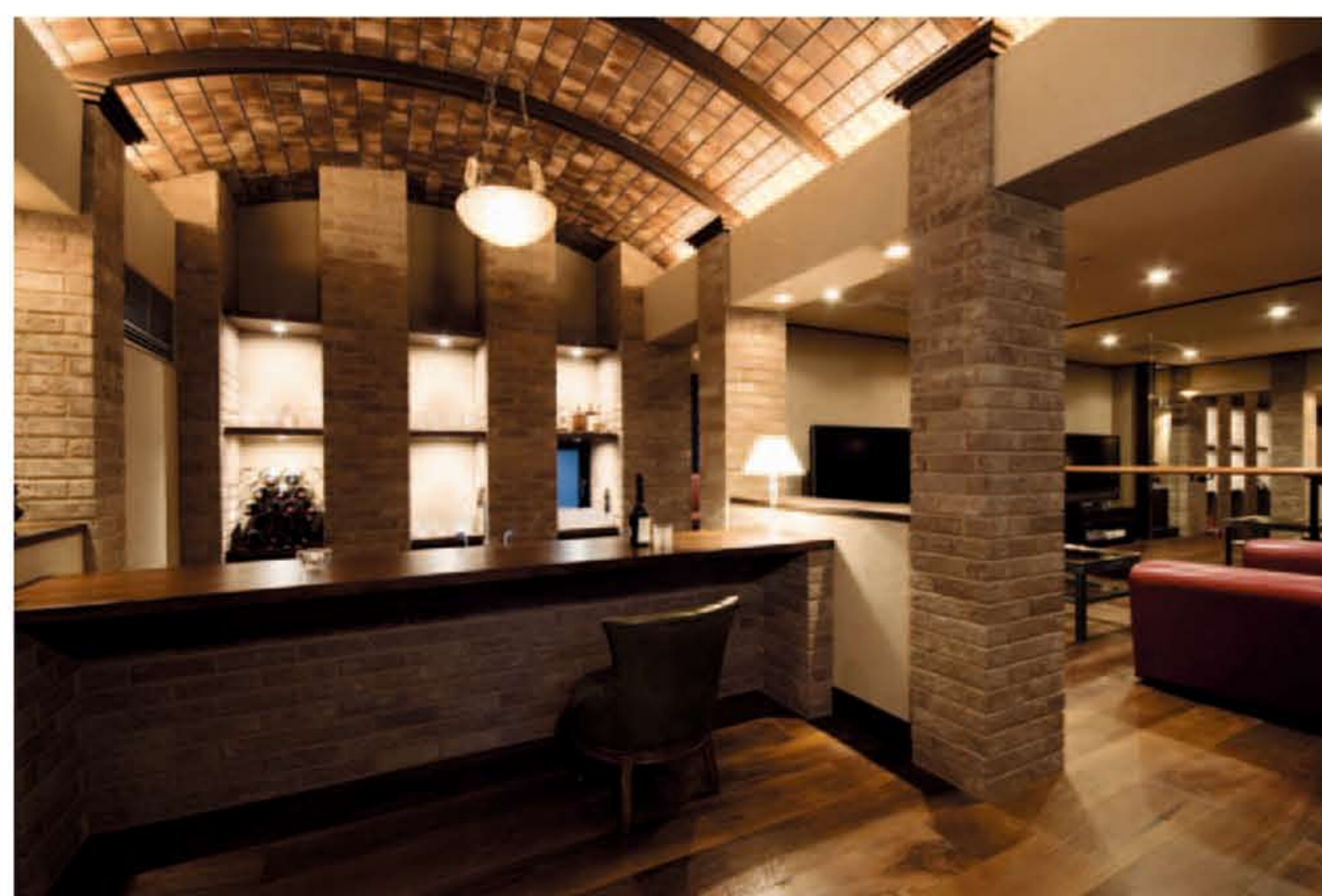
プールはただ泳ぐためのスペースではない——アーネストの住まいにあるプールを見ると、そう感じさせてくれる。プールの楽しみ方は2つある。ひとつは外に向かなくても自宅にいなが家族や友人たちと遊びや健康を共有できる。もうひとつはインテリアとしての効果。視界に入るだけで癒されるし、パーティスペースとしても活用が可能。照明を仕込むと昼だけでなく夜の水面の動きも楽しめる。室内プールの場合是一年中使用できるのもメリット。



プールが要望の第一条件だったK邸には、長さ8mの曲線のプールが設けられた。地面から高い位置にあるので外部からの視線も気にならず、サンルームテラスのようにも使える。2階のLDから見下ろせる設計。

Keyword  
7

アンティーク家具が好きな家族のために提案した、食後に雰囲気を変えて過ごせる地下のバーコーナー。レンガのアーチの天井、古びた雰囲気のフロアリングが、ヨーロッパのバーのようだ。



## 自然の素材を大胆に使う

無垢の木や天然石などの自然素材のもつ力は、家族が安らぐ場としての住宅には欠かせない。特に人類が誕生する前から存在する石は、空間に圧倒的な力強さを生む効果がある。アーネストの住宅は石の使い方が大胆。床やテラスだけでなく、内部空間の壁や外壁などにもダイナミックにボリュームのある石を配する。

Keyword  
5

曲線の石が印象的。Y邸は高台の三角形の敷地に建つ。この土地は北西・南西共に道路に面しているため、道路面は独創的なデザインのアールの大理石の壁で大胆に閉じた。



## 「豊かな空間」をつ

「アーネストのつくる空間はなぜ豊かなのか、そこには住宅の完成度をあげるための

## ゲストを迎えるスペース

家族がライフスタイルを満喫できるスペースだけでなく、ゲストを迎えるスペースがあるとより住まいが楽しくなる。それは単にゲストルームが併設されているというだけではなく、ゲストと一緒に「遊ぶ感覚で過ごせる+αの場所」があること。たとえば食後に場所を移動して過ごせる、バーコーナーやホームシアタールームなどの仕掛けが住み手に新しい発見をもたらす。



H邸のエントランスは白で統一することにより清潔感のある空間に仕上げた。床は大理石、視線の先には開口部を通して庭が見え、そこから自然光が降り注ぐ、明るく気持ちのいい玄関に。

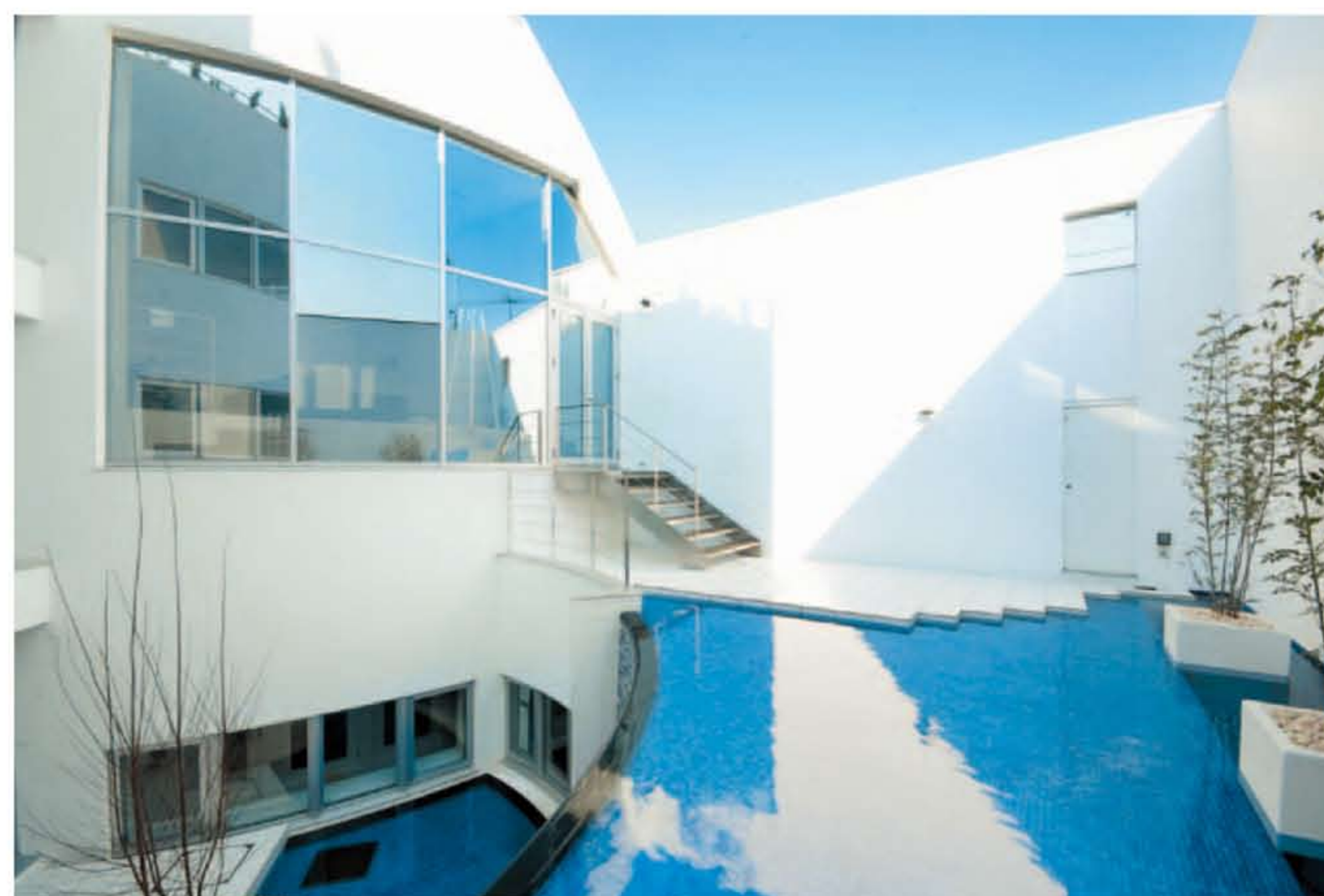
Keyword  
2

## 美しいエントランス

アーネストの設計する住まいのエントランスは、明るく、開放的というだけでなく、一枚の絵のような美しさがある。家族やゲストを迎える空間は家の顔。自然光が降り注ぐ吹き抜けから、上空へと視界が抜ける、開口を通して庭が見える——こういった工夫があるからこそ、空間が贅沢になる。

## くる7つのキーワード

なぜ心地よく暮らせるのか——。7つのキーワードがありました。



Keyword  
4

## 景色を映す水盤

人は生活する場の内外に水という存在があると癒されるもの。水盤は「景色を映す」、「せせらぎの音」、「夏の涼しさ」など、多くの癒しの効果をもたらす仕掛けとなる。住宅と水盤——この2つのアイテムが設計によって配され、いつも身近にあることで、リゾート地にいるような心地よさと開放感が感じられる。

建物の白と水盤の水色で清潔感のある世界観をつくるR邸。建物と壁の間に配された水盤には、空の青が映り込み、都会にいることを忘れさせる。非日常の美しさを日々楽しむことができる。

## 緑あふれるガーデン

建物の内部が広く開放的であることはのびやかに暮らせる要因だが、外部の視線を気にせず過ごせる庭があることも大切。アーネストの住宅の特徴は、おらかな庭のつくり方。単に広だけでなく、庭と内部空間がシームレスにつながる。それによって室内にいても自然と身近に過ごすことが可能に。

Keyword  
1

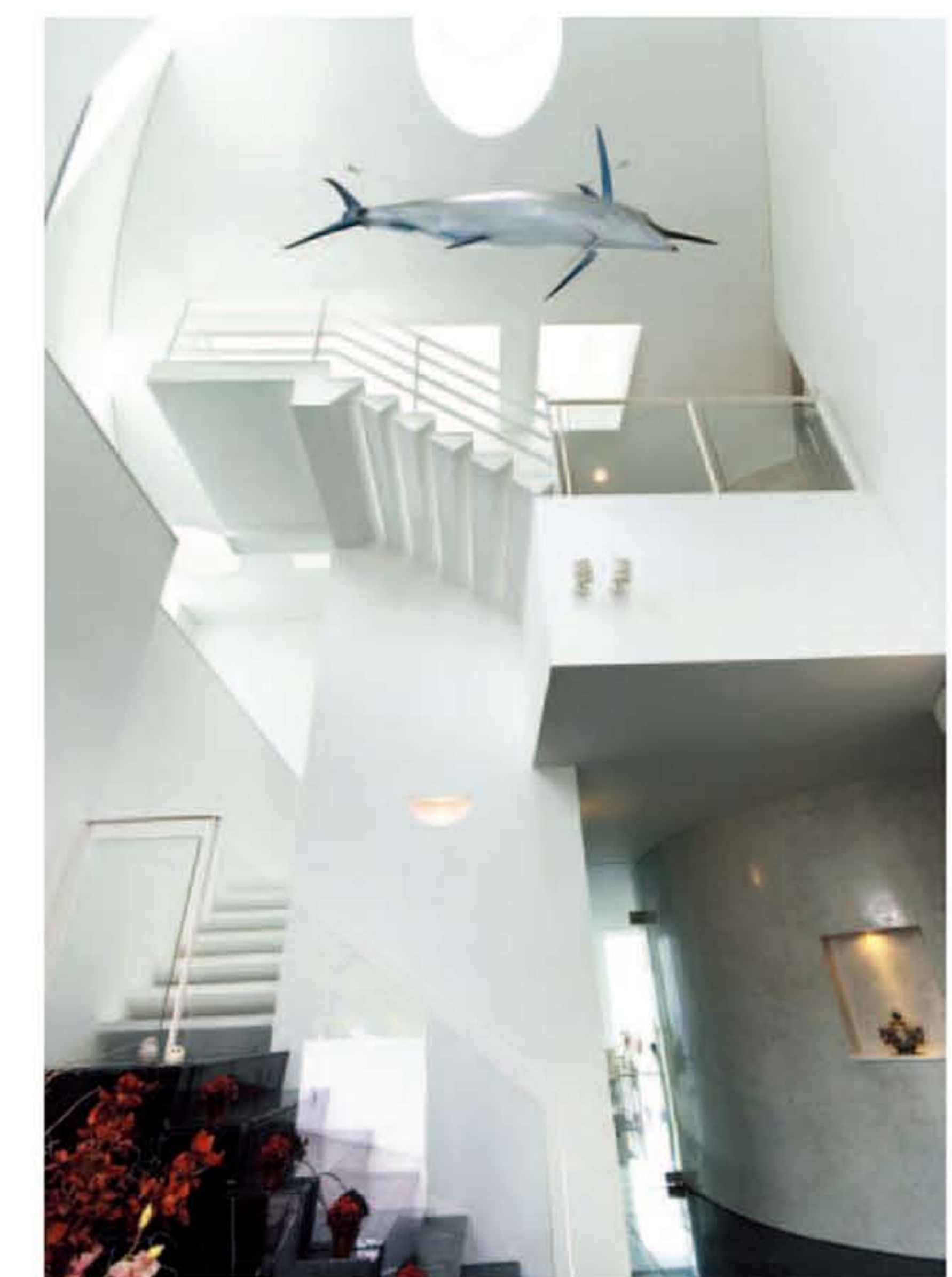


親から受け継いだ敷地の既存の日本庭園を半分残し、子世代が建物を見て替えたD邸。住宅の外観は、美しい庭の雰囲気に合わせて、御影石を用い、格調の高いイメージに仕上げている。

## 吹き抜けのある大空間

天井が高くヌケのある空間は、そこにいる人の心を解き放つ効果がある。特に都心の住宅では外部からの視線が気になるため、どうしても外に対しては閉じ、内部に開く設計になることが多い。そうした場合、上部に抜ける大きな空間をどこかにつくることで、開放感のある住宅が完成する。

Keyword  
3

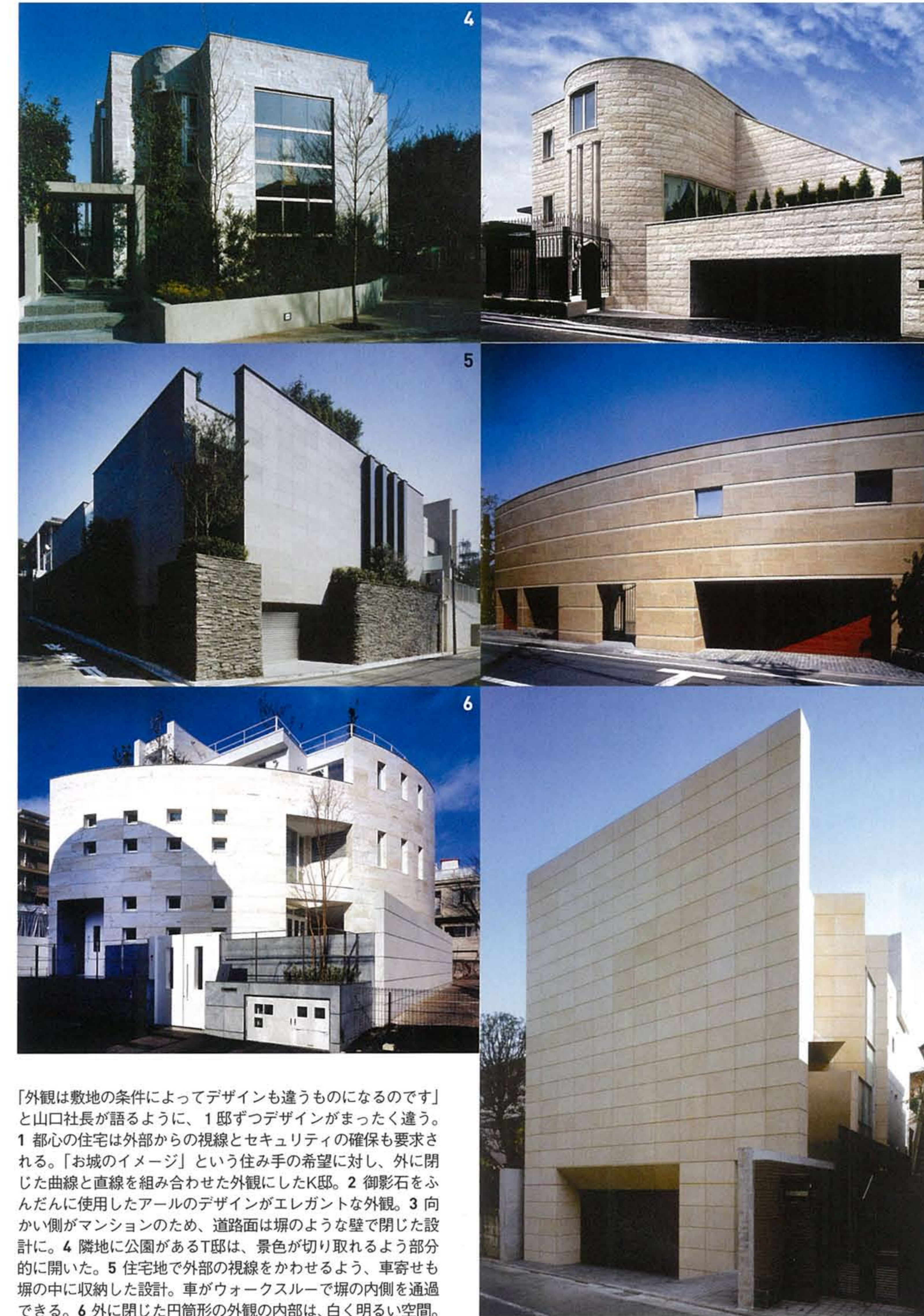


海沿いに建つこの別荘のLDは、270度パノラマで海が見える。そこへ向かうエントランスはあえて縦型に絞り、トップライトを設置した。





2階の踊り場から見るT邸のリビングダイニング。大開口を通して自然光がたっぷり注ぎ込み、外部に配された水盤の反射も楽しめる。



「外観は敷地の条件によってデザインも違うものになるのです」と山口社長が語るように、1邸ずつデザインがまったく違う。1 都心の住宅は外部からの視線とセキュリティの確保も要求される。「お城のイメージ」という住み手の希望に対し、外に閉じた曲線と直線を組み合わせた外観にしたK邸。2 御影石をふんだんに使用したアールのデザインがエレガントな外観。3 向かい側がマンションのため、道路面は塀のような壁で閉じた設計に。4 隣地に公園があるT邸は、景色が切り取れるよう部分的に開いた。5 住宅地で外部の視線をかわせるよう、車寄せも塀の中に収納した設計。車がウォークスルーで塀の内側を通過できる。6 外に閉じた円筒形の外観の内部は、白く明るい空間。

上質で豊かな住宅が「組織設計」によって実現

建築としてのクオリティの高さ、独創性のある発想によって生まれる唯一無二の空間——多くの本物志向の人々から支持されている住宅ブランドがアーネストだ。支持される理由はどこにあるのだろうか。

それは、住み手が「こんなふうに暮らしたい」という希望を、想像を超

えた形で「住宅」という「人間が暮らす器」に仕上げるからだ。あるときは、美しい水盤やウォーターフールで水と身近に過ごせる仕掛けを提案する。あるときは、別荘地内を流れる小川の上に「川を見下ろす別荘」を設計する。住宅として快適で機能的であることはもちろん大切。しかしそれだけではなく、アーネストの住宅は長い時間暮らししていくほど楽しい発見がある。それこそが人

## アーネストとは何か？

生を豊かにする。

そうした住宅は「組織設計」という、アーネストが独自に築き上げた設計方法から生まれている。「組織設計」とは、3つのジャンルのデザイナーたちが力を結集させていないに住宅を設計するというスタイル。企画を担当するコンセプト・デザイナー、詳細を詰めていくディレクター、インテリア・デザイナー。ひとつの

住宅を多くのプロのデザイナーたちがアイデアや経験をもち寄って設計するからこそ、想像を超えた「豊かで快適な住まい」が実現する。「人間の思想やその人自身は「暮らす器」から生まれるものです。だから住宅はもっと豊かであるべきなのです」と、社長である山口徹さんが語るように、常に新しい発想で設計し続けるのびやかな住宅は、ひとつとして同じものがない。

ML別冊  
「アーネストの住宅」が  
4月に発売されます

4月7日にモダンリビングの別冊として発売される「アーネストの住宅 Actualize houses」(ハースト婦人画報社)。これまでアーネストが手がけた数多くの住宅の作品集であると共に、リビング、ダイニング、バスルームなどのディテール集、またどのように設計が進むかなど、アーネストの魅力がまるごと詰まっている一冊。

